

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム みんなのいえ（ユニット②うめ）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100675		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホーム みんなのいえ（ユニット②うめ）		
所在地	〒020-0851 盛岡市向中野二丁目55-6		
自己評価作成日	令和4年12月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら20年目を迎えました。介護に役立つ豆知識を掲載した広報「みんなのいえ通信」を近隣住民へ配布し、情報を発信しております。広報にて、事業所の取り組みや利用者様の様子を地域の皆様に知っていただけるよう努めております。利用者様、ご家族の思いを大切に、人生最後を安心して健やかに過ごせるよう看取りを含め対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、盛岡市の盛南開発で発展した地域に位置し、周囲には高等学校や小学校、幼稚園、クリニックや公園があり、生活環境にも恵まれている。コロナ禍前は、町内会長の仲立ちを得て地域住民との交流も活発に行われていたが、今は難しい状況である。そのような中でも、毎月利用者の生活の様子を映した写真や介護の豆知識を掲載した「みんなのいえ」通信を家族だけでなく地域にも配布し、地域との繋がりを途切れさせないよう努めている。理念である「共に和に、共に生きる」を基に、利用者が楽しく過ごせるよう人格の尊厳・尊重を常に考え、カンファレンスや3ヵ月毎に行われている「身体拘束適正化委員会」の中でも話題にし、全職員理解を深めながら実践し支援に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年1月26日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に和み 共に生きる」を事業所理念とし、利用者様とお互いに支えあいながら支援している。	開設当初からの事業所理念「共に和ごみ、共に生きる」を具体的に運営理念に著わし、玄関やホールに掲示して職員間で共有している。「身体的能力維持」を目指して毎日ラジオ体操を行ない、「安心と尊厳のある生活」の提供に努めて支援している。職員との年2回の面接で半年の目標を明確にしなが、理念をどう自分の中に落とし込めるのかを模索している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、積極的な交流は難しく、近隣住民と挨拶を交わす程度の交流にとどまっている。	事業所の中でコロナ感染者が蔓延したため、学校に通う子ども達が声を掛けてくれるのみで、地域との交流を継続することはできなかった。利用者の様子の写真や介護豆知識等を掲載した「みんなのいえ」通信を毎月配布し、繋がりを途切れさせないようしている。コロナ禍が収束した際には、以前のような交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している「みんなのいえ通信」を近隣へポスティングし、認知症の豆知識を地域の方々へ情報提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6回中3回が書面開催となり情報交換の機会が少なく、運営に生かすことが出来なかった。	2年間書面開催のみだったが、今年度は2回公民館にて対面開催をすることができた。町内会長が橋渡しとなり、民生委員2名が加わることができた。また家族も各ユニット2名ずつ加わり、率直な意見をいただくことでサービス向上に繋がるものと期待できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は、地域包括支援センターの職員と連絡を取り相談やアドバイスをいただいている。	市の担当課とは申請や報告書など必要な手続きの際に出向いている。往来は少ないが、運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員と必要時に連絡や相談を行っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束について職員と確認、身体拘束をしないケアを考え、実践している。	全職員参加の身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、指針の読み合わせなど行っている。ベテランの退職と新人の採用で、特にスピーチロックは職員間で認識に差があり、研修会の必要性などを感じている。身体拘束の指針について、家族に入居時説明し同意を得ている。現在1名の利用者が、家族の同意のもと夜間にベッド柵を使用している。離床センサーの利用者はいない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について資料を回覧し、学ぶ機会を作っている。また、「ドキッとノート」を活用し、原因不明な内出血を発見した際は、お互いの介助方法について注意し合い虐待防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解していない職員もいると思われるので学ぶ機会を作りたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書などで説明し、疑問や不安を伺い、納得していただけるよう時間をかけ対応している。また、退所の際は、退所に至る経緯を説明し、双方同意の上で退所に至った旨を書面に残している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族様とコミュニケーションをとるよう心がけ、意見・要望を聞きだすようにしている。家族様から出た意見・要望は検討し、運営に活かすようにしている。	運営推進会議に4名の家族がメンバーとなっており、率直な意見が反映されやすい環境にある。入居者とは玄関で面会し、部屋まで入れる状況にはない。月1回請求書と訪問看護記録とともに、「みんなのいえ」通信を送付しており、普段の生活の様子がわかると家族には好評である。家族からいただいた意見や要望は、職員間で検討し運営に反映するように努めている。

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員とコミュニケーションをとるように心がけている。個人面談を行い、意見・要望を上司に伝える機会を設けている。	年に2回の職員との個人面談やカンファレンス、また何気ない休憩時間の雑談などから話される意見や提案を把握し、出来ることは提案を具体化し、時には本部に相談することもある。シフトは職員の希望で変えている。新人教育は事業所毎に任せられているが、法人共通のマニュアルの必要性を法人に働きかけているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表を使い、職員個々の半期の取り組みを評価している。運営法人は資格取得を推奨し、資格取得時は報奨金・資格手当が支給される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、研修等はありませんが更新研修等は受講しています。人事考課を半年毎に行い、職員の現状把握に努めている。研修への参加や資格取得をバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、同業者との交流は行っていない。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご本人、ご家族と面談し思いや要望を伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談の時にご家族の不安や要望を伺っています。		

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としているサービスに応えられるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その都度、利用者の要望、訴えを聞き、日々の生活の支援を行っている、一緒に昼食を摂ったり、食事の準備をしたりして共に過しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者の状況をその都度伝え、理解とご協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、コロナ禍で面会時間を制限している状況にありますがタブレット、アクリル板などを使用し極力支援しています。	コロナ禍で思うように馴染みの人や場への支援は難しい状況にあるが、10月から15分だけ家族との面会が出来ている。家族には年賀状を書いて送り、書くのが大変な入居者には職員が手を添えて支援している。自宅周辺へのドライブも試みており、馴染みの場所を思い起こさせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者との間に入り、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ相談を受けている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り一人ひとりの思いや暮らし方の要望、意向の把握に努め添うように努めている。	意思疎通が図れる入居者は1/2位しかいない。意志疎通が図れない人には1対1で顔をしっかりと見て1つ1つ確認しながら、思いを受け止めるよう努めている。意思を伝えることが出来る人も、希望や意向を確認しても「おまかせ」という返事が多く、日常の「ちょっとした一言」を聞き逃さず取り上げることを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの1日の過ごし方、新進状態有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や主治医・訪問看護から得た助言、情報等を職員間で話し合い概ね三ヶ月から六ヶ月毎に見直しを行っている。ご本人、ご家族の意向が反映されるよう作成している。	入居時ケアマネジャーが作成した暫定プランでケアを実施している。モニタリングは職員全員で行い、3ヵ月後に月1回開催の職員会議で主治医、訪問看護の情報や家族の思いも含めて見直しを行い、職員で共有した内容をケアプランとして作成している。家族の承認を得て実践している。2回目以降は原則6ヵ月ごとに上記プロセスでケアプランを見直し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録で生活の様子、食事量・水分摂取量、排泄等記録している。申し送りノート、ドキットノート、業務日誌も活用し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、歯科衛生士による口腔ケア、歯科医往診、往診可能な医師の協力を頂きなれ親しんだ環境で最期まで過せるよう看取りを含め対応している。		

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関係機関(消防署、交番など)へ利用者の情報を提供し安全、安心して生活できるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は原則家族対応としているが緊急時や家族様の対応が困難な場合は職員が対応している。受診の際は情報を提供している。	入居前からのかかりつけ医を利用している利用者は1名で、他の利用者は入居時に協力医をかかりつけ医としている。1名の方は家族が受診対応をし、難しい時は職員が代行している。週1回の訪問看護師、2週間に1回の協力医の訪問診療、月1回の訪問歯科など、医療連携を密にしている。訪問看護記録は毎月家族にお届けし様子を知らせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制を取っており、訪問の際は利用者様の心身の状況を伝え助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	現在、入院してもコロナ禍の為、面会の出来ない状況であるが、利用者様の状態を伺い早期に退院出来るようにご家族様及び病院関係者と情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携指針を説明し同意を得ている。利用者様の状況に応じて随時家族様と話し合い、主治医、訪問看護と情報共有しながら看取りにも積極的に取り組んでいる。	入居の際に利用者、家族へ看取り指針(医療連携指針)を説明し、同意を得ている。状況の変化により訪問診療医師、訪問看護師と連携して家族に説明し、家族の意向に沿い、事業所での看取りを希望する場合には、普段通りに接し最後まで支援している。実際には急な体調の変化により救急搬送し入院する方や特養を選択する家族が多いが、開設19年で10人程の看取りを行っている。	

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備えとしてマニュアルを目に付く所に張り付けているが、訓練は行っておらず対応できない職員がいる可能性がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災、夜間想定での避難訓練を行っているが水害時の避難訓練を行っておらず地域との協力体制も整っていない。	年2回火災想定での訓練を実施し、うち1回は夜間想定訓練とし課題をもとに取り組んでいる。市のハザードマップでは水害時の水没地域になっており、今後、水害対応の訓練も必要としている。備蓄は、食料、飲料水を3日分備えている。	水害時の避難場所の確認や避難するまでに要する時間や避難する過程での困難なこと等を明らかにし、どの部分に地域住民の協力があればよいのかなど、まずは運営推進会議などで検討できる資料を作成されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重し個々が気がねなく過せる言葉かけ、対応が来ている。	「好きに過ごしていいんだよ」という信念を管理者が持ち、入居者一人一人の生活の自由を支援するような環境づくりを心掛けている。職員には、人格の尊重はまず言葉遣いからと指導を重ねている。居室への出入りの際には必ずノックあるいは声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい環境作りが出来ておらず自己決定しにくい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先となっていることが多く一人ひとりのペースを大切にして支援出来ている職員は少数である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の利用者は自ら服を選んでいるが介護度の高い利用者は同じような服装になっている。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けを行える利用者が減少した。食事を楽しくなるようなコミュニケーションを取れる職員が少なく静かな食事となっていることが多い。	週2回は過去に栄養士が作成した摂取カロリー計算したものを取り入れ、他の5日間の昼は日勤職員が献立を作成し、朝と夜は冷蔵庫の食材を確認しながら調理している。買い出しは火・木・土曜日に行っている。献立は各ユニットで作成している。行事食として、夏祭り、敬老会、大みそか等があり、誕生会では職員の手作りケーキを提供している。準備・片付けができる入居者が減少し、茶碗ふきのお手伝いできる人が若干いる程度である。楽しく食事がとれる雰囲気を心掛けたいが、利用者は耳が遠い方が多く、1対1でないと対応が難しく、また雰囲気づくりが苦手な職員もあり、静かな食事時間になってしまうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者毎に摂取量を調整し提供している。食事、水分量をチェックしながら水分量、栄養を満たせるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。月一回の歯科往診と衛生士による口腔ケアで訪問歯科と連携し清潔保持を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤や食生活で一定のリズムで排泄出来るように支援している。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けの職員を変えてみたり、時間を変えたりしながらトイレ誘導を行っている。布パンツ使用は、「さくら」で2名、「うめ」で1名と、それぞれに合わせたパンツを使用している。介護度が進み改善が見られない状況にあるが、現在の機能が維持できるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄状況を確認し下剤の調整、水分量のチェックを行っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好む時間帯に声掛けをし入浴を促したり、入浴している時もリラックスして入れるよう声掛けをしている。	週2回木曜日以外の午前中に入浴している。体調や気分がすぐれない時には、別の日に入浴を勧めている。家族の意向もあり、同性介助希望が2名おり対応している。季節によりゆず湯・菖蒲湯の入浴剤を活用し、寛いだ気分で入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に安眠して頂くよう日中に活動を促したり夜間、眠りの浅い方は昼寝をして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を常時確認出来るようにしている。服薬内容変更に関しては職員全員で確認し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の誕生会や季節ごとの行事にを行っている。職員と入居者様が出来ることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で思うような外出は出来なかったが花見や紅葉を見にドライブするなど機会を作った。	コロナ禍で思うような外出はできないが、季節の折々にドライブをし、花見やチャグチャグ馬っこ、紅葉を見にでかけたり、御所湖、高松の池へ白鳥を見に行く等、今出来る範囲での支援を行っている。天気の良い日には、敷地内の散歩やベランダで日向ぼっこをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、原則お金の持ち込みはお断りしている。希望される方は家族と相談のうえ小額の現金を所持している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みんなのいえ (ユニット②うめ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレットによる遠隔地でテレビ電話を出来る体制を整え、実際に利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどに季節感のある飾りつけなどを行い利用者に季節感を分かって頂けるよう努めている。	ホールの室温は、エアコンとパネルヒーターで、23～25度に保ち、快適に過ごせるように管理している。利用者と職員が一緒に作った「水木団子」が飾られ、季節感を感じられるよう工夫されている。利用者が昔作成したバラの刺繍の立派な作品も飾られている。食卓兼のテーブルが2台、ソファ2台、テレビが備えられ、利用者はラジオ体操をしたり、決まった椅子に座って好きな事をしながら日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの各所にソファを設置している。一人で過ごすこと出来るし気の合う人と一緒に過ごすことも出来る。自席の位置も変更するなどしより良い状況になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具、小物、家族の写真等持ってきており、安心して過ごせるよう努めています。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、パネルヒーター、エアコンが備え付けられている。入居者の好みによって家族写真や好きな小物を飾り、また仏壇を持ち込む人もいて、本人が居心地よく過ごすことができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で出来る事は行ってもらっている。利用者の状況に合わせ介護用ベッド、車椅子、ポータブルトイレ等使用し安全に過せるよう支援している。		